

第101回箱根駅伝

総合17位

未来へ希望つなく

第101回東京箱根
間往復大学駅伝競走
11月25〜3日、東
京都・大手町〜神奈
川県・芦ノ湖

予選会を2位で通過し、2年ぶりに箱根路に戻ってきた専大。往路は20位に終わったが、翌日の復路では全区間で15番以内と安定感をみせて16位と巻き返し、総合17位で72回目の箱根駅伝を終えた。5区間で専大記録を更新するなど、未来へと希望をつなぐ走りを見せた。

往路では、1区に新井友裕(文3・浦和実高)、2区にダンカン・マイナ(商1・専大熊本高)、3区に上山詩樹(経済2・敦賀気比高)と、3本柱で勝負をかけた。上山の区間1位の好走もあり、一時はシード権まで約70秒まで迫ったものの20位と厳しい現実を突き付けられた。

気持ちの切り替えて臨んだ復路は徐々に順位を上げ、10区では駅伝主将の藁科健斗(経営3・横浜高)が必死の走りで一つ順位を押し上げた。長谷川淳監督は、「悔しい結果だが、復路で希望が見え、ポジティブに捉えている」と話した。主将の千代島宗汰(文4・鳥栖工高)は往路を終え、「全く気にする必要はない。心機一転やるメンバーに「本心に意地



2区で各校のエースと競り合ったマイナ 撮影=高野葵葉(文3)



粘り強い走りを見せた9区の大田和一斗(文4・東農大二高) 撮影=君嶋悠樹(経済1)



区間12位と好走した3区の上山

撮影=北原倅多(文3)

専大スポーツ
[専大スポーツ] https://www.senshu-u.ac.jp/sports/
No. 458

専大スポーツ
編集部
公式WEB
掲載記事を含む全文はコチラ↑
@sensuponow
Instagram sensuponow

専大勢躍進

4日間わたって開催された天皇杯で、専大勢が躍進した。男子フリースタイル61kg級では石原弘幸(経営2・玉立工高)が準優勝を果たし、向田旭登(経営3・花咲徳栄高)が3位に入賞。同79kg級では高原崇陽(経済3・高山西高)が3位に輝いた。

石原は、「あと一つのところで負けてしまった」と悔しさをにじませながらも、「負けた試合を含め、上位の選手たちとの差を感じた。見えた課題

石原は、「あと一つのところで負けてしまった」と悔しさをにじませながらも、「負けた試合を含め、上位の選手たちとの差を感じた。見えた課題

を克服し、来年こそはチャンピオンになれるように頑張る」と意欲を語った。

一方、初入賞を果たした向田は、「入賞できたことは素直にうれしい」と喜んだものの、3大会連続で同じ相手に敗れ、悔いを残した。大学生活も残り1年。全日本で優勝できるよう、より一層努力したい」と意気込みを語った。

昨年引き続き3位の高原は、「まだ実力が足りていない。優勝を目指して練習していく」と力強く宣誓した。

(小池佳政・文3)

男子57kg級 原田 準優勝

国際大会で結果残す

ワールドボクシングカップファイナル11月26〜30日、英国・シェフィールド

男子57kg級で原田周大(法4・豊国学園高)が準優勝の成績を残した。準々決勝で逆転勝利を収めると、準決勝は圧倒的決勝進出を決めた。

決勝ではブラジル代表のルイス・オリベira選手と接戦を繰り広げたが、3-2のスコアで判定で惜敗。相手は技術面が強く有名選手だったが、互角以上に戦えたのでとても自信を持てたと振り返った。

大会を終えて原田は、「パリ五輪明けの大会で結果が出てほしい」と振り返る。決勝戦ではあと一歩届かず悔しいが、自分にはまだ成長の余地があると感じた」とコメント。

課題として戦術の幅を広げることが挙げ、「運動量に加え、細かい技術や駆け引きを磨けばもっと強くなれる」と語った。

井上選手とスパー

12月には世界スパーバンナム級統一王者の井上高弥選手とのスパーリングを経験した。

井上選手の次戦の相手と動きが似ているということから実現し、「接近戦でのパンチ力は驚異的だったが、自分の動きを出すことができた」と振り返った。

今後について、「次のオリンピックに向けて階級の変更がありそうなので、新階級に合わせてコツコツと頑張っていく」と意気込みを語った。

(富田心暖・ネット情報)

記録コーナー

△アイスホッケー部
▽関東大学リーグ戦ディビジョン1B(9月22日〜12月15日、東京都) 3位
△アメリカンフットボール部
▽関東学生リーグ戦2部Aブロック(9月15日〜12月8日、東京都ほか) 2位
△バスケットボール部
▽全日本大学選手権大会(11月29日〜12月15日、東京都ほか) 【男子】ベスト8 【女子】ベスト16

5000円・1万円 菊池 2種目制覇

全日本学生スピードスケート距離別選手権大会11月30日〜12月1日、群馬県・高崎健康福祉大学伊香保リンク

菊池健太(経営4・白樺学園高)が、5000円と1万円の2種目で優勝した。5000円では2位に8秒54差、1万円では10秒25差と圧巻の滑りだった。

大会を振り返り、「最後の全日本学生距離別選手権で2種目を制することができてうれしく思う。余裕を持ったペースから後半スピードを上げていく、自分らしいレースができたと思うが、トップ選手と比べると技術、体

辻本が優勝

ジュニアW杯 第1戦5000円

辻本楓芽(経営1・白樺学園高)が、スピードスケートのジュニアワールドカップ・第1戦ボールド大会(11月30日〜12月1日、トマシヨフマゾウイェツキ)に出場。5000円で優勝、10000円で3位に入賞した。

(藤林)

1部復帰ならず

関東大学ラグビーリーグ戦1・2部入替戦12月15日、埼玉県・熊谷ラグビー場

2部リーグを2位で終えたラグビー部は、1部復帰を懸け1部7位の日大との入替戦に臨んだ。木原三四郎主将(経営4・東福岡高)を中心に当たり負けしないタックルで相手に勢いを渡さず、16-17と1点差で前半を終えた。しかし後半は

徐々にミスが目立つよう

木原主将は「本意な結果だったが、自分自身としては良いプレーもあり、やり直すことができ。チームとしては相手のプレッシャーにやられて、ターンオーバーされる場面が多かった。細かいところで相手の方が上だったので、来年はそこを詰めてほしい」と後輩たちへの期待を述べた。

(北原)



突破を図る小口篤(経営2・札幌山の手高) 撮影=田畑杏樹(文1)